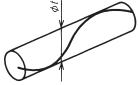
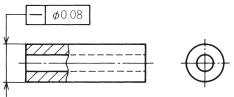
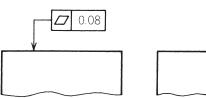
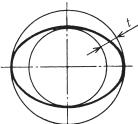
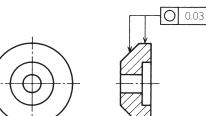
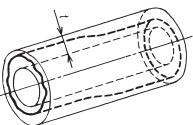
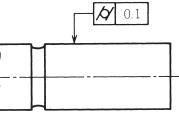
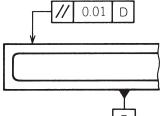
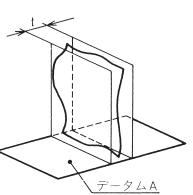
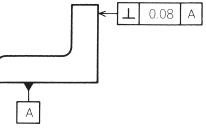
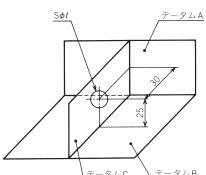
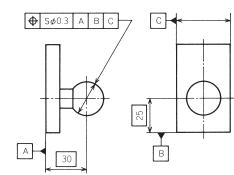
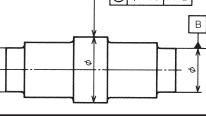
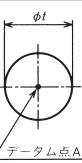


幾何公差の図示方法

●JIS B 0021(1998)より抜粋

記号	公差域の定義	図示例とその解釈
真直度公差	— 公差値の前に記号 ϕ を付記するとき、公差域は直徑 t の円筒によって規制される。	 公差を適用する円筒の実際の(再現した)軸線は、直徑0.08の円筒公差域の中になければならない。 
平面度公差	□ 公差域は、距離 t だけ離れた平行二平面によって規制される。	 実際の(再現した)表面は、0.08だけ離れた平行二平面の間になければならない。 
真円度公差	○ 対象とする横断面において、公差域は同軸の二つの円によって規制される。	 円筒及び円すい表面の任意の横断面において、実際の(再現した)半径方向の線は半径距離で0.03だけ離れた共通平面上の同軸の二つの円の間になければならない。 
円筒度公差	∅ 公差域は、距離 t だけ離れた同軸の二つの円筒によって規制される。	 実際の(再現した)円筒表面は、半径距離で0.1だけ離れた同軸の二つの円筒の間になければならない。 
平行度公差	// [データム平面に関連した表面の平行度公差]公差域は、距離 t だけ離れ、データム平面に平行な平行二平面によって、規制される。	 実際の(再現した)表面は、0.01だけ離れ、データム平面Dに平行な平行二平面の間になければならない。 
直角度公差	⊥ [データム平面に関連した表面の直角度公差]公差域は、距離 t だけ離れ、データムに直角な平行二平面によって規制される。	 実際の(再現した)表面は、0.08だけ離れ、データム平面Aに直角な平行二平面の間になければならない。 
位置度公差	⊕ [点の位置度公差]公差値に記号 $S\phi$ が付いた場合には、その公差域は直徑 t の球によって規制される。球形公差域の中心は、データムA、B及びCに関して理論的に正確な寸法によって位置付けられる。	 球の実際の(再現した)中心は、直徑0.3の球形公差域の中になければならない。その球の中心は、データム平面A、B及びCに関して球の理論的に正確な位置に一致しなければならない。 
同軸度公差	◎ 公差値に記号 ϕ が付けられた場合には、公差域は直徑 t の円筒によって規制される。円筒公差域の軸線は、データムに一致する。	 内側の円筒の実際の(再現した)軸線は、共通データム軸直線A-Bに同軸の直徑0.08の円筒公差域の中になければならない。 
同心度公差	◎ 公差値に記号 ϕ が付けられた場合には、公差域は直徑 t の円によって規制される。円形公差域の中心は、データム点Aに一致する。	 外側の円の実際の(再現した)中心は、データム円Aに同心の直徑0.1の円の中になければならない。 